資料論文

家族や親子で行うスポーツの教育的価値について
―小学生のスナッグゴルフ体験を通して―

堀江修平・早田剛[1)]・庄司樹生[2)]・井上尚彦[3)]・森北育宏

2023年1月7日受付　　2023年2月1日受理

On the educational value of sports played by families and parents
― Through the SNAG golf experience of elementary school students ―

Shuhei Horie, Gou Hayata, Tatsuki Shoji, Hisahiko Inoue, Ikuhiro Morikita

キーワード：スナッグゴルフ，小学生，家族・親子，教育，スポーツ

責任著者：堀江修平（大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科　s-horie0912@ouhs.ac.jp）

Ⅰ．緒言

1．はじめに

児童の不登校や問題行動など生徒指導上の問題が明るみになった際に児童と保護者の関係性が取り沙汰されることが多い．

令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果[1)]では，不登校になる要因として「家庭内の不和」「親子の関わり方」が挙げられ，小学校では，親子の関わり方（14.6％）が主な要因として2番目に多くなっている．

また，斎藤ら（1993）も，非行少年は，父親・母親と「話すことはない」と回答するものが多くなる．必要に迫られた場合のみ親子の会話が成り立っており，「親子の交流を深めるような日常的な会話はほとんどない」[2)]と明らかにした．

保護者も，子供の行動・気持ちがわからない（31.2％）[3)]，子供との接し方が分からない（14.6％）[3)]と考えており，子供とのコミュニケーションの仕方（19.5％）[3)]や子供とのコミュニケーション不足に不安を感じている（11.5％）[4)]など子育ての悩みを抱えているケースが多い．

児童の不登校や問題行動に悩んでいる保護者は，親子がふれあい共に行動する機会の不足[5)]やコミュニケーションを取ること，日頃から関わり合うことが大切であると認識しているがその方法や交流の仕方がわからないな

1）IPU・環太平洋大学体育学部　2）大阪府スポーツ振興課
3）一般社団法人ジュニアゴルフクラブチーム連盟

どの問題がある.

彦次ら（2019）は,「親子スポーツ体験が信頼感や心理的居場所感を高める」[6]と考察しており，青島（2004）も親と子のキャッチボールは「遊戯を超えて有効なコミュニケーションの手段」[7]と明らかにした.

家族や親子が日頃からスポーツでの交流を通してコミュニケーションを取ることは，児童の不登校や問題行動の減少に役立つと考えられる.

しかし，スナッグゴルフを通した家族や親子のコミュニケーション機会獲得の可能性については，わかっていない.

そこで，本研究は，小学生のスナッグゴルフ体験を通して，家族や親子のコミュニケーション機会獲得の可能性とゴルフ機会獲得の可能性について検証した.

2．スナッグゴルフとは

スナッグゴルフ（SNAG golf）は，アメリカで生まれた，比較的新しいゴルフに似たスポーツである.「子どもから大人まで」「楽しく」「ゴルフの基本が身につく」をキーワードにわかりやすいルールとクラブのヘッド部分が大きく，大人から子ども，ゴルフ初心者でも簡単に挑戦できる.

スナッグゴルフは広さの限られた場所でも十分に楽しめるスポーツでもある.

使用するボールは，テニスボールのような比較的柔らかい素材を利用し（SNAG＝くっつき），スナッグフラッグにスナッグボールをくっつけてそのホールを終了とする.（6～18ホール実施）

ルールは，ゴルフに似ており，全てのホールを回り終わった後，合計打数の少ないプレーヤーから順位を決定する.

使用する用具は，ランチャー（アイアン）とローラー（パター）である．ランチャーは，誰もが楽しめるようにランチパッドと呼ばれる台座でボールをティーアップ（打ちやすい状態）して使用する．ローラーは，地面にあるボールをそのまま打つ.

それぞれのホールは，15m～120m程度で設定される．初心者でも楽しめるように点数の表示された的にボールくっつけて競うゲームもある.

3．スナッグゴルフを選択した理由

①運動強度・運動量
　体力の差や激しい動きを必要としない
②初心者にも扱いやすい工夫された用具
　クラブの面，ボールが大きい
③季節や天候に左右されにくい
　運動場，体育館等で行える，熱中症予防
④安全性の高さ
　ボールの柔らかさ，クラブの重さ，身体接触がない
⑤保護者の実施率の高さ
　類似スポーツのゴルフは，1年間で成人が実施した球技の中で最も多い[8]

⑥親子交流大会がある
夏休み中に，親子で参加する大会がある．同じルール，同じ用具で行う
⑦小学校で体験活動が盛んである
大阪府では，トップアスリート小学校ふれあい事業として小学校にプロゴルファーを招いて体験活動を行っている[9)]
⑧感染症対策
用具を共有しない，一定の距離を保つことができる

Ⅱ．方法

1．体験活動詳細および調査対象者

1）実施日
令和4年7月23日（土）
2）場所
パナソニックスタジアム吹田
3）イベント名
ジュニアスポーツフェスティバル
（スナッグゴルフ体験）
4）調査対象者（保護者）
参加児童の保護者33名
（父親10名：20代～40代，母親22名：30代～50代，祖父1名：60代）
5）体験活動参加児童
40名（男子児童31名，女子児童9名）
学年：1～6年生.
6）体験内容（1時間）

①スナッグゴルフ用のクラブ（ランチャー）の握り方や振り方の説明
②スナッグゴルフの試技（見本）
③子供たちが体験，同時にプロゴルファー5名が体験中の子供たちを指導
④プロゴルファー5名による試技
⑤保護者（家族）が体験
⑥本アンケート実施

2．アンケート調査および倫理的配慮

調査は，参加した児童の保護者に対して実施した．項目は，児童のスナッグゴルフ体験の様子について，参加理由について，スナッグゴルフを通じて家族の関わりについてである．

アンケート内容については，主催の一般社団法人ジュニアゴルフクラブチーム連盟および共催の大阪府担当者から事前に許可を得た．調査対象者には，プライバシーの保護及び調査協力への任意性を保証するため，アンケート用紙を提示しながら口頭にて依頼を行い，調査票の回収をもって同意を得たと判断した．

Ⅲ．結果

１．スナッグゴルフを通して家族や親子のコミュニケーション機会を求める保護者について

図１は，スナッグゴルフ体験に参加した理由が，家族や親子のコミュニケーションや会話のきっかけづくりにしたいと回答した保護者を対象に調査を行った．

今回のスナッグゴルフ体験を通して，家族や親子で行うスナッグゴルフは，コミュニケーション機会の獲得に繋がるかどうかを質問した．

コミュニケーションづくりに関する回答は，13名の保護者から18件あった．コミュニケーションづくり以外の理由は，その他を含め13種類設定していた．（複数回答可）

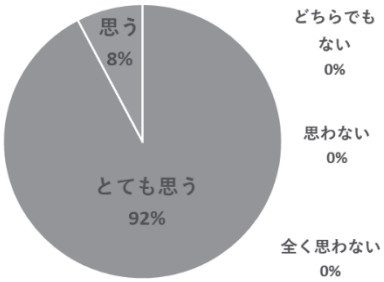

図１　スナッグゴルフを通して家族や親子のコミュニケーション機会の獲得についての割合（13名）

２．ゴルフを通してコミュニケーション機会を求める保護者について

図２は，今後，児童がスナッグゴルフを始めてゴルフに興味を持てば，一緒にゴルフの練習やラウンドを行いたいと思うかをゴルフ経験のある保護者に対して質問した結果である．

ゴルフ経験のある保護者は，21名（有効回答20名）であった．

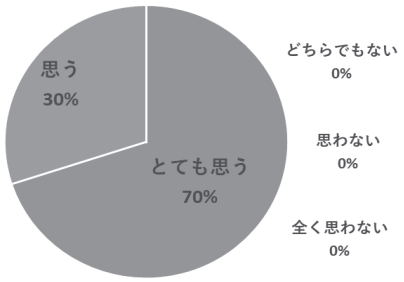

図２　スナッグゴルフをきっかけに家族や親子でゴルフを行いたいと思うかについての割合（20名）

Ⅳ．考察

１．スナッグゴルフを通して家族や親子のコミュニケーション機会を求める保護者について

スナッグゴルフは，家族や親子のコミュニケーション機会獲得を期待する保護者にとって有効な手段となる可能性が示唆された．

保護者がコミュニケーション機会の獲得に繋がると考えた要因として彦次ら（2019）の，「何らかの形で親子で一緒に体験することによって生まれてくる楽しさ，一緒に体験することで触れ合える，成長を感じられる，癒される」[6] が支持されたものと考察できる．

また，保護者の参加理由について，約34％が家族とのコミュニケーションづくりのきっ

かけとして参加しており，家族や親子間のコミュニケーションを重要視していると考えられる．

２．ゴルフを通してコミュニケーション機会を求める保護者について

ゴルフを行っている保護者にとっても児童らがスナッグゴルフを始めることでゴルフの練習やラウンドを一緒に行う機会になり，それらを望んでいる保護者からの回答が多くみられた．

家族や親子でゴルフを行うことも，コミュニケーション機会の獲得に十分繋がると考察できる．

成人のスポーツ実施率の調査[8]で明らかのように，今回の調査でも，ゴルフを日頃から行っている保護者が多く，スナッグゴルフがゴルフに似ているため，スナッグゴルフを家族や親子で楽しみたいという回答に繋がったと考察した．

今回，参加者の約63％の保護者及び家族が日頃からゴルフを実際に行っていた．

Ⅴ．まとめと今後の課題

家族や親子で行うスナッグゴルフ・ゴルフは，コミュニケーション機会の獲得に繋がる有効性が検証された．

しかし，今回の調査では，コミュニケーション機会獲得の可能性については調査できたが，その後や具体的な内容については，検証できていない．今後は，スナッグゴルフを通して家族や親子にどのような関係性の変化を生むのかを調査し検証を積み重ねていく必要がある．

Ⅵ．最後に

スナッグゴルフは，誕生してまだ間もないスポーツである．

大阪府スポーツ振興課や一般社団法人日本高等学校・中学校ゴルフ連盟，一般社団法人ジュニアゴルフクラブチーム連盟は，大阪府内の小学校や特別支援学校でスナッグゴルフの体験授業を行っている．その成果もあり，今回のジュニアスポーツフェスティバルでは，募集定員上限の100名近くの児童が参加した．

また，JGTO（日本ゴルフツアー機構）も，男子ゴルフレギュラーツアーの4日間終了後に大会会場のゴルフ場で小学生のスナッグゴルフ大会を行っていたり，スナッグゴルフ連盟のある都道府県及び市区町村も増えつつある．

国際交流大会や全国でも，シーズン中は，毎週のように大会が開催されている．

親子交流大会に出場したり，児童が大会で活躍することでより深い家族の関わりに繋がることが期待できる．

謝辞

最後に，本研究にご協力いただいた大阪府スポーツ振興課，一般社団法人日本高等学校・中学校ゴルフ連盟，一般社団法人ジュニアゴルフクラブチーム連盟，上記団体の皆様には，様々な助言をいただき心からお礼を申し上げます．皆様から多くの学びをいただきましたことも重ねて深く感謝申し上げます．

引用文献

1）文部科学省：令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果.
https://www.mext.go.jp/content/20211007-mxt_jidou01-100002753_1.pdf.
（2022年9月1日閲覧）

2）斉藤絢子，天野幸子：非行少年の日常生活と親子のかかわり：3. 親子の対話と親への期待. 日本教育心理学会総会発表論文集，第35回：432,（1993）.

3）文部科学省：令和3年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究～『家庭教育』に関する国民の意識調査～」調査結果報告書.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/mext_00007.html.
（2022年9月1日閲覧）

4）文部科学省：平成28年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実のための実態等把握調査研究～」報告書.
https://katei.mext.go.jp/contents2/pdf/H28_kateikyouikushien_houkokusho.pdf.
（2022年9月1日閲覧）

5）文部科学省：家庭の教育力再生に関する調査研究（平成13年度）.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2009/03/09/1236114_3.pdf.
（2022年9月1日閲覧）

6）彦次佳，則定百合子，矢出大介ほか：親子スポーツ体験の楽しさと効果に関する研究. 和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書，2018巻：96-99，2019.

7）青島健太：父と子のキャッチボールのススメ. 初版, スキージャーナル株式会社, 東京（2004）

8）スポーツ庁：令和3年度「スポーツ実施状況等に関する世論調査」の概要.
https://www.mext.go.jp/sports/content/20220222-spt_kensport01-000020451_1.pdf.
（2022年9月13日閲覧）

9）大阪府：トップアスリート小学校ふれあい事業.
https://www.pref.osaka.lg.jp/sports/syogakkou/index.html.
（2022年9月1日閲覧）